

Contents

- 自民党政務調査会長として二期目約一年半
- 地方出張・選挙応援



岸田文雄の地方出張・選挙応援

岸田文雄は自民党政調会長として、また宏池会会長として、こまめに地方出張を行い、また選挙の際には自民党の顔として応援に全国を回っています。

特に今年は統一地方選挙や各補欠選挙などがあり、また地方政調も精力的に開催したので、時に一週間のうち何日も地方出張になったということもありました。

さらにこの後参議院議員通常選挙が控えており、岸田文雄の地方出張・選挙応援はますます増えていくことでしょう。



季刊「翔」八十号 発行平成三十一年四月二十五日
自由民主党広島県第一選挙区支部「翔」編集室
〒730-0013 広島市中区八丁堀六一三 和光八丁堀ビル九階

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード

岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、(株)日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米国大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成29年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄フェイスブック

www.facebook.com/kishdafumio



自民党政務調査会長として

二期目約一年半

文・翔編集部

岸田文雄は、平成29年8月に自民党政務調査会長に就任して現在まで約1年半以上の期間が経ちました。その間、衆議院の解散と総選挙や統一地方選挙、米朝首脳会談や南北首脳会談などの政治日程、平昌冬期オリンピックやFIFAワールドカップロシア大会など、国内



政調改革の1つペーパーレス化

外で国際社会が注目する大きなイベントが多く開催されました。また北海道での地震や西日本を中心とした豪雨などの災害も発生し多くの被害が出てしまいました。この間今挙げた出来事以外にも様々なことがありましたが、いよいよ来月から「平成」の時代から「令和」の時代へ変わり、日本も一つの大きな区切りの時代、新しい時代を迎えることとなります。

この中であつて岸田文雄は自民党政調会長として、与党の政策責任者という大きな役割と責任を担ってきました。岸田文雄は外務大臣を4年8ヶ月、その後自民党政調会長として1年半、この間常に日本の政治の中心にあり続け、その責任を双肩に担ってきました。

自民党政調会長は大きな責任と権限を持つています。例えば国会で審議される法案を例にとっても、自民党は与党です。内閣提出法案いわゆる閣法についても、基本的には国会に提出する前に全て自民党内で審議することになってい

ます。そしてこの党内の審議機関を「政務調査会」と言い、政務調査会長とはそのトップです。法案などは自民党内で部会や政調審議会などいくつかの場で審議され、自民党総務会を経て党内了承され、その後内閣から国会に法案が提出されることとなります。特に部

会においては国民に直接選ばれた国会議員が直接法案の審議に関わるわけであり、時に喧々囂々の議論になったり、法案によっては中身の修正が図られたり、ものによっては提出に至らず廃案になることもあつたりします。岸田文雄はその党内の政策責任者であり、大きな影響力と責任を担っているわけです。

また、政調会長は選挙の際においては、党の政権公約を取りまとめる役でもあります。岸田文雄これまで衆議院議員総選挙と統一地方選挙を政調会長として経験していますが、衆議院議員総選挙の際にはまさに与党としての政権公約



自民党政調パンフレット発表

を取りまとめ、また統一地方選挙の際には、公約ではありませんが、党の考え方を一般国民に分かりやすく伝えるよう自民党としての政策をまとめたパンフレットを作成しました。そして今後、参議院議員通常選挙が控えており、そのための公約作りに尽力していくことになるでしょう。

さらに政調会長は党の最高幹部のひとつであり、党の顔のひとつでもあります。そのため、選挙の際にはもちろん、普段から党所属議員をはじめ、地方組織や各種団体などから多くの講演などの依頼が入ってきます。またテレビや新聞をはじめとして、多くの取材依頼や、さらに有識者や外国人からも面会依頼が入ってきます。多くの党務や会議をこなしながら、岸田文雄は党を代表して様々なイベントや取材や面会に応じています。

普段の仕事や活動だけでも多忙を極める自民党政調会長ですが、岸田文雄は政調会長として新たな施策にも取り組んでいます。

中でもいわゆる政調改革と呼ばれる政調部門の大きな改革は、自民党の歴史に新たな1ページを刻んだと言えるでしょう。党の政策部門の集約と機能強化のために部会中心とするための部会長

の適性当選回数を引き上げ、副部会長まで出席を義務づけたインナー制の導入、タブレットを導入することでのペーパーレス化の実施、また組織のスリム化のために既存の会議などを3割減少させるなど、これまでの自民党には無かつた大改革です。しかし岸田文雄が取りまとめた改革案は、まだ全てが実行されたわけではありません。引き続き、時代に合わせた改革に岸田文雄は着手していくことでしょう。

現場の生の声を聞き、独自の事情をくみ取り、それを国政に反映させるべく、地方に場を移して会議を行う地方政調会を開催しています。これもこれまでになかった、岸田文雄の発案による新しい取り組みです。昨年からは始まった取り組みですが、これまで8回の開催を重ね、多くの人達の生の声を聞き、それを政策に反映してきました。

この他にも、公約・政策等検討委員会を立ち上げ、これまでの公約や政策の実施状況など細かく検討し評価をするなど、自民党として初の試みに数多く挑戦してきました。

このように、外務大臣として多くの実績を残してきた岸田文雄ですが、政務調査会長としても新たな歴史を築いていると言えるでしょう。

今後、今上陛下の退位と新しい天皇の即位、そして「令和」の始まり、また参議院議員通常選挙やG20など、国の内外で大きなイベントが多く控えています。岸田文雄はいま最も注目されている政治家です。今後とも国政の中心で大きな期待を背負い、重責を担い、責務を果たしていくことでしょう。



元駐米大使ケネディさんと



インドのモディ首相



地方政調会での一幕



自民党役員会



地方政調会での一幕



自民党の地方アピール



両院議員総会



公約・政策等検討委員会の取りまとめを安倍総理に説明



ノーベル平和賞受賞者サロ・節子さん